

特別展示「THE 金箔瓦」によせて

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



聚楽第周辺武家屋敷跡出土金箔瓦

伏見城跡出土金箔瓦

京都市考古資料館では、令和 4 年度後期特別展示として「THE 金箔瓦」を開催します。

織田信長の死後、その後継者として天下統一を進めた豊臣秀吉は、安土城をしのぐ大規模な大坂城、さらに聚楽第、伏見城と、天下人としての武威を示す壮麗な居城を次々と築いていきます。天下統一が成し遂げられ、次第に世情が安定してくると、^{けんらんごうか}絢爛豪華な桃山文化が花開きました。

建物をきらびやかに飾り立てた金箔瓦は、織田信長の安土城に端

を発します。豊臣秀吉は、信長が採用した瓦・石垣・礎石建物を備えた安土城の築城プランを継承し、金箔瓦も引き継ぎました。

ヨーロッパから布教にきていたイエズス会の宣教師は、安土城の金箔瓦を指して「(天守の) 瓦は大きさポルトガルの瓦に等しきが、製作巧にして外より之をみれば薔薇又は花に金を塗りたるが如し」と具体的な記述を残しています。

さらに宣教師ルイス・フロイスは大坂城をみて、「屋根にはそれぞれ正面(部)があり、上部には怪

人面が付いた黄金の鬼瓦が置かれ、それはまた角(の部分)にも(あった)。そしてそれらの瓦は皆黄金色で、建物にいつそうすばらしい光彩を添えていた。(以下略)」と、屋根に金箔瓦が使用されていたことを伝えています。

織田信長は、金箔瓦の使用を自身とその直系一族以外には認めなかったと考えられています。豊臣秀吉は当初、自らの居城である大坂城のみに金箔瓦を採用しましたが、天正 13 年(1585)の関白就任を契機として一門の居城に金箔瓦



金箔瓦が出土した聚楽第周辺武家屋敷の堀跡



伏見城跡の石垣基礎



京都新城跡の石垣・堀（上）と出土金箔瓦（下）



の使用を認め、天正18年（1590）の天下統一を境に、全国規模で使用するようになります。このように金箔瓦は、政治性の強い遺物ですが、天下統一の過程で生まれ、秀吉時代に全盛を迎え、江戸幕府成立とともに衰退することになりました。

今回の展示では、安土桃山時代を象徴する遺物の一つである金箔瓦をメインテーマとして取り上げます。「金箔瓦の誕生－安土城・大坂城－」「金箔瓦の展開－聚楽第・伏見城・京都新城－」「各地の金箔瓦－駿府城・広島城・上田城－」

「金箔瓦の終焉－二条城・公家町－」に分けて、その誕生から終焉までの歴史を写真パネルと遺物で追います。

写真パネルは、金箔瓦の葺かれている城郭の様子が分かる絵図、金箔瓦が出土した発掘現場や出土状況で構成します。

遺物は、権威を誇示するかのよう^{むなごめかわら}に城郭を黄金に輝かせた金箔瓦の数々を展示します。金箔瓦は屋根の軒先を飾る軒丸瓦・軒平瓦がほとんどですが、ほかに大棟を飾る棟込瓦と鳥衾^{とりぶすま}・鬼瓦^{ししぐち}・獅子口と呼ばれる飾瓦もあります。

また、金箔瓦の製作技術や科学分析による新しい視点についても紹介します。

金箔は方形に小さく切って漆を接着剤として貼り付けますが、最新の科学分析によって漆の種類や金箔の純度が明らかになっており、その成果に基づいて試作した復元品も展示します。

金箔瓦で絢爛豪華に築かれた城郭の情景に想いを馳せてみませんか。金箔や彫刻に彩られた豪華な城郭の威容は、他者を圧倒したことでしょう。

イ ウンジン
(李 銀眞)